

ふくてっく運営会議 議事録

開催日時：平成25年9月7日 10:00～11:45

開催場所：大阪市立社会福祉センター 3階会議室

参加者：(理事・監事) 杉浦 曾我部 稲住 岡 清水 小川 中北

(その他参加会員) 山本 和泉

議事進行：中北 書記：中北

議事

議題1. NPOぱあとなあ 若江岩田PJに関する活動参加

計画図により計画説明

年初の建物調査、市との協議その他の経過を報告。

来週以降概算工事費を算定 24日(予定)の会議で実施範囲を決定する。

10月中に実施設計を完了し、11月に施工者決定。12月着工 年度内完成を目指す。

自立体験室Cは、一般的な住まいをバリアフリー改修したような設定とする。

A・Bについては障害者住環境整備のメニューを様々に取り入れる。

大きな浴室は地域生活をしている障害者がヘルパーと伴って入浴利用することも想定するなど、多様な利用サービス提供を図る。

ふくてっくの取組課題

特に自立体験室の計画について、当会の経験やノウハウを集約したい。

また開設後においては、ここを利用する障害者が自宅の環境改善を想起するときに相談に応じて適切なアドバイスをする。あるいは、逆にそれぞれから意見や要望を聴き取る。

さらに、ケアマネやヘルパーその他への研修会場にも活用することができる。

14日のこむねっと部会にて検討し、設計に反映したい。

計画に対する意見

体験室A・Bから利用する小さいほうの浴室は、積水の浴槽を移動できる仕掛けがよいのではないか。

議題2. 補助金等申請に関する基本姿勢

過去に、ふくてっくとしては明確な趣旨や計画性を伴わない活動の助成金等受給申請を控えるという議論があり、その後は長く受給申請をしてこなかった。

今回の件は、助成金の募集案内に対して、曖昧な意図で取り組んだものではないことは理解するが、応募する側の趣旨や応募規定などの詳細な把握が不十分なまま、募集期限に迫られて会として十分な議論や準備を整えることができないことに鑑み、受給申請を取りやめた所である。

今後の取組について、改めて議論し助成金申請等に係る基本姿勢を決めておきたい。

当会が行っている多岐に亘る活動は、それぞれに当会の理念に基づいて社会的に意義ある目的性と計画性を有しているはずであり、中には単独で事業性のあるものや収益性のあるものもあれば、そうではないものもある。事業性はないが社会性についてその合理性に一定のコンセンサスを図ることができれば、外部の助成金等に期待する前に会として必要な経費を予算化して支援する仕組みをもつべきである。

当会には既にそうした経済力が備わっている。また以前に、解散したボランティア・アドバイザーの会から残余財産を譲り受けているが、これも福祉に役立ててほしいという気持ちを受け取りながら、全くその活用ができていない。

また、一般にボランティア活動等を振興する趣旨の助成金は、発足間もなく様々な意味で組織が脆弱な団体が優先して受けるべきであり、当会が企画力を発揮して、そこに食い込むことは控えるべきことと考える。

そのような一般的な活動振興(底辺の支え)を趣旨とする助成ではなく、“新しい公共”の担い手として先駆的な目的性がある、当会がその培った特性を活かして、当会ならではの

の（余人をもって替えがたい）取組を遂行するような助成事業であれば、これに積極的に取り組むことは検討に値する。

その場合においても、応募に係る活動は、予め毎年度の活動計画にうたわれている大枠に準拠したものであることが望ましく、助成金応募に対してにわか発起するものは好ましくない。

議題 3. （仮称）第3部会設立準備の経過

経過報告

東大阪部会、こむねつと事業部会を除く他の各活動については、「部会」という形態が事実上解消した（特段に部会と称する意味が少ない）ことを受け、まず旧木工部と旧福祉用具部の要素を統合して「ものづくり部会」を想起したが、それに加えて研修部会や住環境研究部会等も含め、あるいはそうした旧部会に拘ることなく、第3の集まり（部会と称するかも今後の課題）の設定を模索してきた。

ただ、各旧部会が解消したという認識が会員間にはまだ徹底していないとの指摘もあり、その周知を図りたい。

設立の趣旨・目的

ふくてっくの原点は、部会という分派を作らず、会員ならだれもが参加し活動できるというものであった。しかしながら、現在当会の主要な活動は東大阪部会とこむねつと事業部会の2つに占められている。それは社会の求めるニーズに対応して20年の経過の中でミッションと体制を変遷してきた結果である。

特質として、この2部会は専門性が高く、誰もが参加できるものではない。

そこで、この度意図している集いは、みんなが参加して活動できる場づくりを第一義としている。具体的に何をしてゆくかはこれからの課題であり、今後予定しているミーティングで議論する。ふくてっく理念・ミッションを広く解釈して、“何でも”“すぐに”をモットーに、参加して“元気になる”“親睦を図れる”ことを念頭においている。

そんな中で、目的の明確化が図れれば、そこから独立した部会を新たに設立してゆくこともありうる。

運営方針

収入を得ることのできる活動については参加メンバーに配分することもあるが、活動は無報酬を基本とする。

グループミーティングは3か月に一度程度のペースで、池端さんのオフィスをお借りしたいと考えているほか、毎月の例会前に30分程度集まって意見交換したい。

議題 4. 11/23の活動予定

池島まつり

まだ正式な参加要請は届いてないが、基本的には参加を求める意向を受けている。

9月中には通知があるだろう。

参加を前提として、従来の趣旨と同じく自由木工とするが、単に大工道具を使ったものづくり体験をさせるだけでなく、道具の責任ある管理や後かたづけといったマナーの習得を重要な要素とする。このため各種大工道具をばらばらに自由使用させるのではなく課題にそって必要と思われる工具をセットで貸し出す方式とする。

これを従来の大工道具箱ではなく、折りたたみ式のバケットで行いたい。

従来の道具箱では、数セット運び込むにも相当なかさと重量となり、搬送手段が課題となるが、この方式ではバケットは折りたたみ式でかさも低く、道具類は一括して搬送したうえで現場でセットを組むことができるなどの利点がある。

形も愛らしく、子どもも喜ぶだろう。

これについて、その整備に1万円程度の予算をつけたい。

ポジティブ交流祭

ふくてっくとしては池島まつりへの参加を基軸とするので、本年も交流祭には会としての参加は見送ることに決定している。

ただ、中北は中部障害者解放センターの役員として交流祭にも参加するが、ここに岡会員が考案したドーナツ型お好み焼きを出展したい。
すでに中部にも意向を伝え、先方からも是非にと歓迎されているので了解いただきたい。一同、異存なく了承。

議題 5. 20周年記念事業の進捗状況

周年事業の案内はがきも準備ができ、送付先の名簿作成に取り組んでいる。

ATC 事務局にはこれまでの入会申込書が保管されており、故人の識別などを経てもなく把握できるようだ。

会員ではないが、密接なかかわりのあった方々への案内も必要であるが、会報の送付先は 70 あまりあり、そうした方を加えると、まず落ちはないはずだが、最終的にチェックも必要となる。

案内では、20 年を経た事の報告に併せ、ふくてっくに関する資料等の提供もお願いする。

また、20 年の間の活動や部会の形成・消滅などの歴史も振り返って資料にまとめた。これについては、各部会において、それぞれまとめてもらうほか、中北が事務局長を務めた時代の保管資料を活用する。

その他議案

阪南病院見学会について

本日の定例会で参加者を募集する。

先の学習会の際に病院からいただいた資料・DVD の提供をもとめているが、いくつかが行方不明になっている。